

八合田遺跡

遺跡番号 平成11年度登録
調査回数 第1次
所在地 村山市大字土生田字八合田 2565-1 他
北緯・東経 北緯 38度 33分 06秒・東経 140度 23分 21秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設事業
調査面積 600㎡
現地調査 平成22年9月8日～11月26日
調査担当者 渡辺和行（現場責任者）・池田透・渡部裕司
調査協力 東日本高速道路株式会社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 縄文時代
遺構 柱穴・土坑・溝跡
遺物 縄文土器・石器（文化財認定箱数：1箱）



図1 遺跡位置図(1:50,000)

調査の概要

八合田遺跡は JR 袖崎駅の北西に位置し、東に沢の目川が流れる。遺跡は低位段丘上にあり、周辺には水田やスイカ畑などが広がっている。東北中央自動車道建設に伴って、遺跡範囲の南端部を調査することとなった。

遺構と遺物

検出された遺構は全部で 100 基程で、ピットや不定形の土坑、さらに水が溜まっていたと考えられる溝状の落ち込み等がある。

遺構周辺から石鏃や縄文土器が出土していることから当該期の遺構が主であると考えられる。また、溝状の

落ち込みの底から縄文土器と考えられる土器片が出土していることから同様のことがいえる。土器は水の浸食を受け磨滅しており、文様自体は明確に確認出来ず、うっすらと縄目の痕跡が確認出来る程度である。破損などによって廃棄された可能性が高い。

柱穴も検出されている。しかし建物跡を構成していたかなどの検証はこれからである。

不定形の土坑については斜面の際に位置することから落ち込みの可能性が高い。ただし、円形の土色変化がみられ、覆土に細かい炭化物が多く含まれていたこと考慮すれば竪穴建物跡などの床面であった可能性もある。今後の検証課題といえる。

まとめ

八合田遺跡における生活域は溝状の落ち込みに囲まれたやや標高の高い場所であったと考えられる。遺構や遺物もその場所から集中して検出されている。しかし、遺物の出土量や遺構の種別や数量からしても集落の中心とは考え難く、今回の調査区は集落の縁辺部にあたるとみられる。恐らく遺跡範囲の北側に中心となる集落が存在していたと考えられる。今後の調査に期待したい。